

SMFGにおけるCSR

CSRの考え方

社会全体の持続的な発展への貢献を目指して

現在、地球温暖化や人口の急増、先進国における少子化・高齢化の進行など、人類はさまざまな課題に直面しています。社会の持続的な発展に向けてこれらの社会的課題を解決するために、当社グループは複合金融グループとしてどのような貢献ができるのか。自ら問いかけ、実践していくことが当社グループの社会的責任、すなわちCSRと考えています。

CSRの基本方針

当社グループは、CSRの位置付けを明確にし効果的に推進していくために、CSRの定義とCSRにおける共通理念である「ビジネス・エシックス」を定めています。

● SMFGにおけるCSRの定義

事業を遂行する中で、①お客さま、②株主・市場、③社会・環境、④従業員に、より高い価値を提供することを通じて、社会全体の持続的な発展に貢献していくこと

● SMFGのCSRにおける共通理念=ビジネス・エシックス

1. お客さま本位の徹底

私たちは、お客さまに支持される企業集団を目指します。
そのために、常にお客さまのニーズに合致するサービスが何かを考え、最良のサービスを提供することにより、お客さまの満足と信頼を獲得します。

2. 健全経営の堅持

私たちは、自己責任原則に基づき、公正、透明かつ健全な経営を堅持する企業集団を目指します。
そのために、株主、お客さま、社会等のステークホルダーとの健全な関係を維持しつつ、効率性と長期的視点に立った業務運営、適時かつ正確な情報開示を通じ、持続的な成長と健全な財務体質を堅持します。

3. 社会発展への貢献

私たちは、社会の健全な発展に貢献する企業集団を目指します。
そのために、企業の公共的使命と社会的責任を自覚し、広く内外経済・産業の安定的な発展に貢献する業務運営に努めると共に、「良き企業市民」として社会貢献に努めます。

4. 自由闊達な企業風土

私たちは、役職員が誇りを持ちいきいきと働ける企業集団を目指します。
そのために、人間性を尊重すると共に、高い専門性を持つ人材を育成し、もって、自由闊達な企業風土を醸成します。

5. コンプライアンス

私たちは、常にコンプライアンスを意識する企業集団を目指します。
そのために、私たちは、業務の遂行において常に、私たちのビジネス・エシックスを意識すると共に、監査や検査の指摘に対する速やかな行動を確保し、もって、法令諸規則や社会の良識に則した企業集団を確立します。

CSRと事業活動を一体で展開

当社グループにおいて、CSRは事業戦略の基盤であると同時に、経営方針/経営目標の達成に向けて事業戦略と一体で取り組むものと位置付けています。つまり、「最高の信頼を通じて、日本・アジアをリードし、お客さまと共に成長するグローバル金融グループ」という10年後を展望したビジョンに、当社グループが推進する事業戦略の方向性が合致しているかを、CSRの基本方針に照らして常に確認する一方、その中でいただいたお客さまや社会のニーズなどをCSR活動に反映していく、という考え方です。

CSRをまっとうすることは、まさに「経営そのもの」であり、CSRに真剣に取り組むことが、経営方針/経営目標達成への最短距離であると考えています。

賛同しているイニシアチブ・ガイドライン

国内外のイニシアチブへの賛同

当社グループは、グローバル社会の一員として、金融機関の持つ社会的影響力を自覚し、以下のような国内外のイニシアチブ(企業活動の行動指針・原則)に賛同しています。

1. 国連グローバル・コンパクト
2. 国連環境計画・金融イニシアチブ(UNEP FI)
3. CDP(カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)
4. エクセター原則
5. 「持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則」
(21世紀金融行動原則)

参考にしてしているCSRガイドライン

当社グループはCSRの推進・展開および情報発信において、下記ガイドラインを参考としています。

1. ISO26000
2. GRIガイドライン
3. 国連グローバル・コンパクトCOP(コミュニケーション・オン・プログレス) Advanced Level 基準

詳しくはWebサイトをご覧ください。

- Web 賛同している国内外のイニシアチブ・参考にしてしているガイドライン
<http://www.smfg.co.jp/responsibility/smfgcsr/structure.html>

COLUMN

400年引き継がれたCSRのDNA

三井住友フィナンシャルグループのCSRの精神は、400年続いた「三井」「住友」の事業精神として引き継がれたものでもあります。

例えば、住友グループでは、かつての別子銅山における公害問題に真摯に取り組み、大規模な植林事業を行いました。荒れ果てた別子の山々を元の自然の状態に戻していくため、専門技術者を招いて森林計画を作成し、毎年100万本を超える植林を実施しました。

また、三井グループでは、健康保険制度の行き届かない明治時代に、生活困窮者にも医療が少しでも行き届くように「三井慈善病院」を設立しました。この病院は時代とともに変遷し、今日の「三井記念病院」として続いています。

当社グループは、このようなDNAを現代にも引き継ぎ、金融サービスを通じて社会的課題解決のための一助を担いたいと考えています。



別子銅山の移り変わり



三井記念病院の設立

SMFGにおけるCSR

CSRマネジメント

CSRの推進体制とPDCAサイクル

当社グループでは、SMFG企画部グループCSR室を事務局とするグループCSR委員会を設置し、グループ全体でのCSRの推進計画を審議するとともに、その進捗を管理しています。

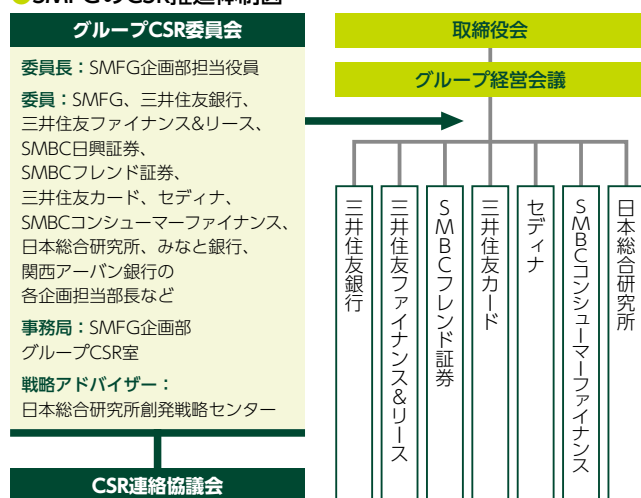
具体的には、毎年度設定するCSRの目標ごとに担当部署を決定し、その進捗についてグループCSR室と担当部署間でレビューを行い、その結果をグループCSR委員会に報告しています。また、次年度の計画についても、グループCSR室と担当部署間で検討をしたうえでグループCSR委員会において審議を行います。

また、CSRのカテゴリごとに活動を推進している事例もあります。

例えばCS（お客さま満足度）・品質向上に関してはグループCS委員会を中心に、各社CS施策の共有化、好事例の横展開等を進めています。

環境負荷軽減の推進については環境マネジメントの国際標準であるISO14001認証を当社および主要グループ会社6社で取得、PDCAサイクルでの環境活動を推進しています。

● SMFGのCSR推進体制図



更に、2010年度からは、グループ横断的なCSR活動の推進をより一層強化する目的で「CSR連絡協議会」を設け、各社で実施している施策の共有や好事例の横展開を進めるため、定期的に検討・協議を進めています。

当社グループのCSR取り組み実績・計画については、Webサイトをご覧ください。

- Web CSRに関する取り組み実績・計画
<http://www.smfg.co.jp/responsibility/smfgcsr/goal/index.html>
- Web CSRレポート2014各種データ集(PDF版)
http://www.smfg.co.jp/responsibility/report/pdf/2014/2014extra_csrweb_all.pdf#page=2

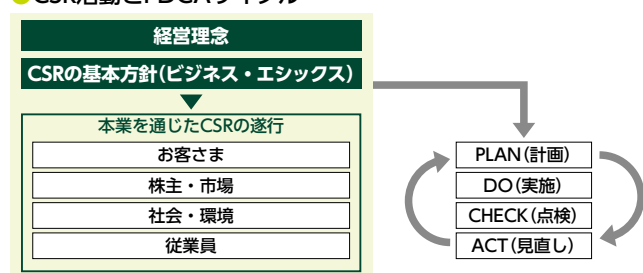
ステークホルダーの声を受けたCSR活動改善

当社グループでは、CSRレポートでの第三者意見、アンケート、社内外からの声などを通じて、CSR活動の改善を行っています。

CSR活動の改善状況については、Webサイトをご覧ください。

- Web CSRの取り組み改善に関する情報
<http://www.smfg.co.jp/responsibility/csrfinance/opinion.html>

● CSR活動とPDCAサイクル



● グループベースでのCSR関連組織

グループCSR委員会	グループ全体のCSR活動に関する事項の協議等を行っています。
グループCS委員会	グループ各社におけるCS推進状況に関する協議等を行っています。
CSR連絡協議会	グループ各社におけるCSR推進状況に関する情報交換および先進事例の研究等を行っています。

階層別研修におけるCSR教育

三井住友銀行では、新人研修、新任管理職研修など各階層別の研修を実施していますが、その際、CSRに関連する内容をより深く理解するための研修もあわせて行っています。2013年度には延べ1,676人が同研修に参加しました。

また、CSR全般に関する事項のほか、人権、お客さま本位、コンプライアンス、マナー・ローンダリング、およびダイバーシティに関する研修なども実施しています。

● 階層別研修におけるCSR教育

年度	新人研修	新任管理職研修	新任部長研修	キャリア採用 入行時研修	合計
2007	1,421	354	150	410	2,335
2008	1,816	482	154	148	2,600
2009	2,090	431	165	13	2,699
2010	978	410	167	0	1,555
2011	709	407	126	0	1,242
2012	833	417	189	8	1,447
2013	1,151	349	170	6	1,676